

校友会本部総会に参加して



白倉 善積 (高37回)

2009年7月11日、恒例の校友会本部総会が高田の「やすね」で開催され、東京支部からは佐久間支部長、上野幹事長、他総勢5名の代表者が招待され、私も出席させて頂きました。

総会には、昭和14年(中46回)から平成16年(高56回)卒までの幅広い年次に亘る300余名の校友が参加。まず斎京会長から校舎改修記念事業の目標額達成報告と募金への協力御礼の挨拶があり、続いて草間校長から学校の現況報告および来年から合宿所が建築着手となることが決まった旨説明がありました。その後、新任者の紹介、会計報告などの議事が粛々と進められました。

その中で、記念事業の募金結果の報告が行われました。以下に概略を記載します。

寄付金目標額1億6,000万円に対して、平成19年4月～20年10月までの募金期間に合計4,725件、1億8,900万円の寄付がありました。ただし、目標達成は、期間の半年延長と、一篤志家からの1件9,000万円により成し遂げられたものであるとの説明がありました。寄付金の一部は、新しい体育館のステージ用の緞帳とスクリーン、および整備を進めているグラウンド用の照明機器の設置に使われるとのことでした。

後日学校を訪れる機会があり、体育館を見学しましたが、実に立派で、ステージも本格的なものでした。自分の頃の高高祭

(文化祭)では、お堀端にあった三角屋根の厚生会館まで大汗流しながら大道具を運んで演劇祭を行ったことを思い出し、今の高高生には恵まれた環境を生かした自己表現を行って欲しいと思いました。

佐久間支部長の挨拶では、現高高生への支援策の1つとして「オープンキャンパス」の実施が紹介されました。また、支部より図書券の贈呈が行われ、草間校長へ手渡されました。さらに、東京六華会は、今回初めて総会でメダル贈呈を行い、伊崎会長(中51回)から草間校長にメダルが手渡されました。

総会后、懇親会開始までの間に小山幸司さん(高13回)が製作した旧校舎解体から新校舎が出来るまでの記録ビデオが会場で上映されました。複雑な校舎のレイアウトや2階までしか無かった生徒玄関横の謎の階段などが懐かしく思い出されました。

懇親会では同級生の姿が無く、少々淋しい思いをしましたが、同年代を中心として多数の方々とお話をする事ができました。日頃知ることが少ない郷土の現状について様々な話を伺うことができ、大変有意義でした。

今後も校友会の本部と支部が連携を深め、母校への物的、人的、その他の支援を継続することの必要性を強く感じました。